

医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第20号 (H27/1/22)



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。
新しい年になりはや半月。今年のお正月休みはたくさん休めたという方も多かったのではなかったでしょうか？
新年早々大雪に見舞われた滋賀県。普段あまり積もらない南部や京都も積雪量が多かった影響で渋滞がすごかったみたいですね。今はフェイスブックやツイッターで「なう」な情報が仕入れやすく、渋滞をうまく回避できた人、新年早々渋滞で動けなかった人…あえて出かけなかった人などいろいろだったと思います。
今年はどんな年になるのでしょうか？
今年も医療福祉・在宅看取りの地域創造会議をよろしくをお願いします。

第32回ワーキング会議

(1/13)

グループワークより

野洲病院の取組について

野洲病院の取り組みは医師と看護師が一緒になって多職種・地域をまきこんでいるのが素晴らしい。

核となる医師がリーダーシップを発揮して支えるスタッフがいるところも違うのだと思った。

野洲病院が主導で市内の多職種スタッフの勉強の場を作られているのが羨ましいと思う。ほかの地域でも行っていただきたい。

5万人という人口と野洲の街全体を複合病院と考えているところがいい。

など野洲病院の積極的な取組に称賛の声が上がっていました。
質問もたくさんありました。

「モチベーション・おもしろみは？」

- ⇒ 「電話の向こうの顔が見える」
- 「みんなが楽しくやることが原動力」
- 「病院のスタッフが地域の人と触れ合える」
- 「風通しがよくなる」

「きっかけは？」

- ⇒ 「院内の在宅医療支援プロジェクトチーム」の誕生
- 「在宅医療に協力する病院協化事業の補助金創設」
- 「三方よし研究会見学」

「大きな変化」

- ⇒ 「病棟の看護師の意識が在宅に帰られる方の支援者としての意識にかわった」
- 「患者さんを通して在宅・病院がつながっているのを感じる」

「ホスピタリト（内科入院専従医）になったのは？」

- ⇒ 「入院専従医師が対応すると…外来から入院の流れが直接病院とつながった気がした。」

要望も出ていました。

こういった多職種連携に家族の会はどうやって入ったらいいのか？きっかけをつくってほしい

もっとほかの医師に動いてもらうには
内原先生に発信してもらう機会を作りたい



次第

- 1.あいさつ
- 2.自己紹介
- 3.報告・連絡事項（事務局）
- 4.「在宅ケアチームをバックアップする病院の活動
～医一居ネット YASUの試み～」

医療法人社団御上会 野洲病院

副病院長（医師）	内原 啓次さん
副看護部長	西村 裕二さん
看護課長	辻内 久代さん
病診連携室係長	乾 建人さん
医療相談室主任	丸山 良子さん
病診連携室事務主任	青木 順子さん

5.意見交換・グループワーク

病院の機能を活かした「在宅ケアチームをバックアップするひとつの実践」について学び
「病院と在宅のスタッフがともに在宅療養を支援するチームとして協働するためには・・・」
について考えましょう。

次回ワーキンググループ会議は

2月12日（木）18：30～
草津市立市民交流プラザ（フェリエ南草津）

「滋賀発 地域を巻き込んだ家庭医の養成」
日本プライマリ・ケア連合学会全国理事
医療法人社団弓削メディカルクリニック
滋賀家庭医療学センター

雨森 正記先生

です。メールまたはFAXで参加の旨ご連絡ください。多数のご参加お待ちしております♪

ご意見お聞かせください。

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議
運営事務局

（滋賀県庁 医療福祉推進課内）

TEL:077-528-3581

FAX:077-528-4851

E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp